

V-A. 平成 27 年度 研究成果発表会 スライドデータ

A. 平成27年度 研究成果発表会 スライドデータ

平成27年度厚生労働科学研究補助金
がん対策推進総合研究事業

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進
及び
高質診療データベースのNCD長期予後入カシステムの構築に関する研究

研究代表者 札幌医科大学医学部大学院医学研究科
消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座
平田 公一

平成28年2月5日

がん医療の質向上を目指した臨床データベース体制の基盤作り
—学会間の考え方の溝解消と新しいステップの為に—

第一段階:「がん診療ガイドラインの理念普及と作成体制の確立」(平成14年11月開始)

第二段階:「がん診療ガイドラインの作成」上の課題解決
(記載・体裁方法、普及方法、利活用方法、財務課題等)

第三段階:「希少がん、がん横断的課題」に関するガイドライン作成

第四段階:「推奨医療内容」の評価、普及の実際と臨床現場での乖離の分析

第五段階:「Follow-UpとSurveillance」の理論と研究結果の利活用の実際

第六段階:臨床データの「悉皆性と精緻性の担保」の方法

第七段階:「医療倫理、情報倫理」の臨床データ組織体制への反映と徹底

第八段階:「全国がん登録」の利活用体制と倫理・法律の周知徹底

第九段階:「メガデータ」による医療分析の公表による医学的分析・社会貢献

すでに広く実施、解決済

進行中 (学会間格差あり)

研究中、未実施

米国のがん関連学会からの問い合わせ
—平成16年当時—

「日本のがん医療の分析体制は
どのようになっているのか」

「なぜ日本にはきちんとした
がん登録体制がないのか」

欧米のガイドラインの歴史

	米国	EU
体制	<ul style="list-style-type: none"> 1971年 SEER計画を法制化 (人口の10%をカバーする地域がん登録の選定後) 1987年 AACCR[USA中央登録室協議会] (36州で実施) 1992年 NPCPの法制化 (全州への拡大、州を政府は支援) 1994年 NAACCR[北米中央登録室協議会] (AACCR+カナダ全州) 	<ul style="list-style-type: none"> 1989年 EUがん対策法制度 1990年 ENCR (ヨーロッパがん登録ネットワーク) (a)EUROCAR I・II・III 5年生存率の提示 (b)EUROCIM がん罹患・死亡のデータベース化、統計解析
研究倫理	主として、「オプトアウト」	主として、「オプトイン」

指定研究の歴史
—「がん診療ガイドライン」をKey Wordとして—

研究段階	研究期間	研究内容	Key Words
第一次研究	< H17年~H18年 >	「がん診療ガイドラインに適用と評価に関する研究」	1. 作成組織数の拡大 2. ガイドライン公表の拡大
第二次研究	< H21年~H23年 >	「がん診療ガイドラインの作成(新規・更新)と公開維持およびそのあり方に関する研究」	1. ガイドライン情報の提供 2. ガイドライン記載の標準化の普及
第三次研究	< H24年~H25年 >	「がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—」 「がん診療ガイドライン普及促進とその効果に関する研究及び同ガイドライン事業の在り方に関する研究」	1. ガイドラインの普及・拡大・検証 2. がん登録の推進 3. がん対策情報センター、MINDSとの協同作業
第四次研究	< H26年 >	「がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—」	1. ガイドライン事業内容 2. がん登録とガイドライン

8→13* 13→20* 20→30* 30→31*

* 研究参加ガイドライン数

研究分担者推薦学会

- ・日本癌治療学会 (4)
- ・日本食道学会
- ・日本胸部外科学会
- ・日本肺病学会
- ・日本呼吸器外科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会
- ・日本胃癌学会
- ・日本肝臓学会
- ・日本肝胆膵外科学会
- ・日本胆道学会
- ・日本膵臓学会
- ・大腸癌研究会
- ・日本外科学会
- ・日本放射線腫瘍学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本乳癌学会
- ・日本産科婦人科学会
- ・日本婦人科腫瘍学会 (3)
- ・日本泌尿器科学会 (3)
- ・皮膚悪性腫瘍学会 (4)
- ・日本皮膚科学会
- ・日本甲状腺外科学会
- ・日本小児・血液がん学会 (2)
- ・日本神経内分泌腫瘍研究会

茶色文字: ガイドライン支援学会 () : 担当ガイドライン数

「がん診療ガイドライン推奨医療」と「臓器がん登録データ」
—理念から実現へ向けて—

フィードバック、新たな推奨の追加

がん診療ガイドライン作成 → がん診療ガイドライン推奨医療の教育と普及 → 診療動向変化の有無の検証と評価 → 診療アウトカム改善の有無と評価

保障診療に即ち中で向上に寄与する適切情報を提供 → アンケート調査 Surveillance研究 → 臓器がん登録 → 本邦発のエビデンスの確立

妥当性の検証

全国がん登録と臓器がん登録の連携研究と整理体制
—データを「個の為」から「公」へ—

病院診療所(一部) → 全国がん登録情報 → がん対策情報センター → 厚生労働省

自治体(都道府県) → 臓器がん登録情報 → 研究促進のためのコンセンサスの形成 → 研究班

研究班: 1. 20種以上の学会との合同会議を形成
2. 研究計画
● 情報収集の体制の在り方
● 情報倫理・医学倫理の普及
● 学会間連携の推進
● 研究成果の公表の在り方
後継研究(法施行後)
● 情報収集体制の課題研究
● がん情報収集関連組織間の連携体制の確立
● 情報分析研究の試行
● 診療内容の詳細・公表の試行
● 臨床への研究情報の開示

登録センター: [第3者機関] NCD、(TRI) OR [非第3者機関] (学会自体)

連携する上での留意点:
1. 診療の質評価体制の確立
2. 診療の取「アウトカム」の向上
3. 患者さんへの「データ」への構築
4. 臨床研究の質向上
5. 医療者の研究倫理観の向上

「臓器がん登録」の現状と課題

領域	NCD等第三者機関との連携		臓器がん登録状況		全国がん登録の利活用
	現状	取組上の課題	がん発生率(学全予後値)	具体的課題	
甲状腺がん	?	?	?	?	?
肺がん	検討中	(-)	報告無	業務遅延・インセンティブ	検討中
乳がん	積極的活用	(-)	約70%	長期予後データ不足	未検討
食道がん	積極的活用	(-)	約40%	同上	同上
胃がん	2016年に連携化	(-)	約50%	登録項目数が少数	同上
大腸がん	積極的活用	(-)	約4%	低がん率	同上
肝がん	積極的活用	(-)	約40%	診療領域間の登録率差大	同上
胆道がん	積極的活用	(+)	約15-20%	同上	同上
膵がん	積極的活用	(-)	約40%	同上	同上
腎がん	積極的活用	(-)	約30%	0年に一度の登録更新	既実施中
膵膵膵がん	積極的活用	(-)	約20%	同上	既実施中
小児がん	一部のがん種の連携化	?	約50%	がん種間の登録率差大	検討中
婦人科がん	構築中	?	約70%	日本産科婦人科学会と日本婦人科腫瘍学会との連携	未検討
皮膚がん	やむをえず消極的	(+)	悪性黒色腫30% 基底細胞腫40%	2種の腫瘍のみ良好	既実施中
NET	やむをえず消極的	(+)	約70%	インセンティブ	既実施中

(平成28年1月31日現在)

臓器がん登録データを用いた臨床研究の現状

領域	学会としての研究		効果・反映
	研究体制・提議の確立	成果英文論文数	
甲状腺がん	報告無	報告無	報告無
肺がん	済み	19	UICCのTNM分類へ反映
乳がん	済み	2	国内診療ガイドラインへ反映
食道がん	検討中	5	報告無
胃がん	検討中	報告無	同上
大腸がん	済み	17	診療動向の変化
肝がん	済み	16	国内診療ガイドラインへ反映
胆道がん	済み	5	今後、利活用の予定
膵がん	済み	3	同上
腎がん	済み	1	同上
膵膵膵がん	済み	2	同上
小児がん	済み	10<	報告無
婦人科がん	済み	0	同上
皮膚がん	済み	3	同上
NET	済み	0	同上

(平成28年1月31日現在)

